



矢野謙一教授

矢野謙一先生のご退職に寄せて

外国語学部長 野 田 耕 司

矢野先生とは東アジア学科の同僚として20年以上の付き合いになる。ありきたりのことばよりも、先生との思い出を記して、矢野先生ご退職記念号の巻頭文としたい。

矢野先生の経歴・研究業績はご自身が記されている通りであり、ここで多言を費やす必要はないと思われるが、特筆すべきは異色の経歴の持ち主であるということである。中学卒業後、大分高専、大阪外大、筑波大院、香川の高校の英語教師、を経て大学教員になられた。一見、本学のような文系大学における業務と無縁と思われがちな高専、高校教師時代の経験はその後、特に大学の学生募集の仕事に活かされることとなる。

先生は理工系出身だけあって、話される言葉の端々に数値が出てくることが多く、学科の入試戦略においても早くからデータを重視されていた。また、高校では進路指導の担当教員でもあったことから、高校側から見た大学というものを常に念頭に戦略を組み立てておられた。私が本学に着任して間もないころに先生から熊本県内の高校についてレクチャーを受けた記憶がある。後に学科長を務めた時に大変役に立った。

学生募集と言えば、先生とレンタカーで大分県内の高校を訪問し学科の紹介をして回った思い出がある。2000年代には本学の入試課の職員以外にも、学科が独自に高校訪問をすることもあり、先生が学科長の時代には東アジア学科の教員総出で熊本県内外の高校を回った。単なる宣伝活動ではなく、高校の先生方から話を伺って高校が大学に求めているものを直に聞き出し、学科の改善や今後の学生募集につなげるという狙いがあった。当時、このような発想は高校教師の経験の

ない大学教員には到底出てくるものではなかった。

石仏や醤油で有名な城下町、臼杵のひなびた旅館に宿泊しての二泊三日のツアーで、事前にアポイントをとらない、言わば「飛び込み営業」のようなものだったが、訪問する高校はデータに基づいて前もってピックアップしていた。あちこち訪問した記憶がある。臼杵はもとより、津久見、大分、別府、杵築、竹田といった地域も回っただろうか。この旅で大分高専時代の話、橋を架ける実習の話だったか、も伺ったし、車中では自動車のカーブの曲がり方についても「レクチャー」を受けた。高専出身だけあって物理学と土木工学を融合したような(?)「講義」内容であった。臼杵ではかつての街の繁栄ぶりについても懐かしそうに話しておられた。今にして思えば、矢野先生にとって、この高校訪問は高専で学んでいた青春時代を追憶する旅でもあったのだろう。

20年前に比べて髪がすっかり白くなれたが、戦略家としての側面は少しもお変わりがない。学部長、副学長、理事の職を経験し、一段と磨きがかかったかもしれない。矢野先生のますますのご健勝をお祈り申し上げ、ご退職記念のことばとする。

矢野謙一先生 略歴

学 歴

- 昭和50年3月 大分工業高等専門学校 土木工学科卒業
昭和55年3月 大阪外国語大学 外国語学部 朝鮮語学科卒業
昭和58年3月 筑波大学大学院修士課程 地域研究研究科修了
昭和57年1月 文部省アジア諸国等派遣留学生として韓国ソウル大学人文大学院
国語国文科へ派遣留学 (昭和58年9月まで)

職 歴

- 昭和59年4月 学校法人藤井学園 香川県藤井高等学校教諭 英語 (昭和62年3月まで)
昭和62年4月 高松市立高松第一高等学校教諭 英語 (平成6年3月まで)
平成3年7月 近畿大学通信教育部非常勤講師 朝鮮語担当 (平成7年度まで)
平成6年4月 熊本学園大学 外国語学部 助教授 東アジア学科韓国語コース
担当
平成13年4月 熊本学園大学 大学院国際文化研究科 担当
平成15年4月 熊本学園大学 外国語学部 教授 (令和6年3月定年退職)

役職

- 平成14年1月 熊本学園大学外国語学部東アジア学科長 (平成17年12月まで)

- 平成26年4月 熊本学園大学 外国語学部長 (平成30年3月まで)
- 令和1年8月 学校法人熊本学園 評議員 (令和6年3月まで)
- 令和2年8月 熊本学園大学 副学長 入試学術研究担当 (令和4年7月まで)
- 令和2年8月 熊本学園大学 図書館長 (令和4年7月まで)
- 令和4年8月 熊本学園大学 副学長 教育改革・インクルーシブ学生支援担当
(令和6年3月まで)
- 令和4年8月 学校法人熊本学園 理事 (令和6年3月まで)

主な研究業績

- 昭和57年2月 日本人による朝鮮語研究略史 『学校教育論集』3号 筑波大学
教育学系 朴研究室
- 昭和57年3月 朝鮮語辞書の歴史—19世紀以降— 『外国語教育論集』第3号
筑波大学外国語センター (共著)
- 昭和58年3月 朝鮮語における擬音語・擬態語 筑波大学大学院修士課程 修士
論文
- 昭和61年11月 朝鮮語の表現 林四郎編『応用言語学講座 第2巻』明治書院
- 昭和61年11月 朝鮮總督府編『朝鮮語辞典』編纂の経緯 『韓』第104号 東京韓
国研究院
- 昭和63年11月 12世紀朝鮮語の語中子音および音節末子音 『研究紀要』高松第
一高等学校
- 平成元年2月 12世紀朝鮮語における有気音について 『韓』第113号 東京韓国
研究院
- 平成3年12月 「なみだ」について 『語源研究』20号 日本語語源研究会
- 平成7年5月 車城縣本高句麗上一作車忽縣景德王改名今龍城縣について 『語
源研究』27号 日本語語源研究会
- 平成9年7月 朝鮮語の擬声擬態語—単音節語の音形と音交替— 『朝鮮学報』

164輯 朝鮮学会

- 平成9年12月 中央アジアでの朝鮮語の変容 『語源研究』32号 日本語語源研究会
- 平成9年12月 単音節擬声擬態語の主要部と共感覚 『熊本学園大学文学・言語学論集』第4巻第2号 熊本学園大学
- 平成9年12月 カザフスタンにおける朝鮮語の変容—고려말의 料理用語を中心に— 『熊本学園大学文学・言語学論集』第5巻第2号 熊本学園大学
- 平成12年9月 朝鮮語用言の活用における音韻現象と音韻規則 『海外事情研究』第28巻第1号 熊本学園大学附属海外事情研究所
- 平成13年11月 朝鮮語の色彩形容詞の分化と基礎色彩用語 『語源研究 20周年記念特別号』 日本語語源研究会
- 平成17年2月 ヴェトナムでの朝鮮語学の現在 『海外事情研究』第32巻第2号 熊本学園大学附属海外事情研究所
- 平成17年12月 『郷葉採取月令』にあらわれた15世紀前半における朝鮮語の音韻 『熊本学園大学文学・言語学論集』第12巻第2号 熊本学園大学
- 平成21年5月 북한 조선어 주석사전과 그 편찬 언어사실과 관점 제23집 연세대학교 언어정보연구원 서울
- 平成21年12月 宝迫繁勝の朝鮮語と明治維新 『延辺大学学报 社会科学版』49号 延辺大学出版社 中国
- 平成22年10月 位置の名詞と属格 『朝鮮学報』217輯 朝鮮学会
- 平成24年5月 日本における旧朝鮮語学 日本語言文化研究第二輯 (上) 延辺大学出版社 中国
- 平成24年10月 学習文法項目論 『韓国語教育論講座第2巻』くろしお出版
- 平成26年6月 20世紀初めの日本人による朝鮮語文法 日本語言文化研究第三輯 (上) 延辺大学出版社 中国
- 平成26年12月 『釋譜詳節第十三』新釈—『法華経』「序品」原文と対照して— 『熊

- 熊本学園大学文学・言語学論集』第21巻第2号 熊本学園大学
平成28年6月 旧朝鮮語学と欧米人の朝鮮語学習書 日本語文化研究第四輯
(上) 延辺大学出版社 中国
令和5年12月 杜甫の詩を使った中期朝鮮語教材の開発 『熊本学園大学文学・
言語学論集』第30巻第2号 熊本学園大学

主な口頭発表

- 平成9年7月 Korean Onomatopoeic Monosyllables and Synaesthesia ,
International conference “History, Culture and Language of
Koreans in Central Asia” , Association of Korean studies in
Kazakhstan, Almaty ,Kazakhstan
平成13年11月 主体の言語 社会言語学会 神戸青年学生センター
平成23年8月 日本における旧朝鮮語学 第二屆中日韓朝語言文化比較研究国際学
術研討会 中国 延辺大学美術学院学術報告庁
平成22年10月 朝鮮文の特徴と役割 第61回朝鮮学会 天理大学
平成24年10月 朝鮮文の語彙と文法 第63回朝鮮学会 福岡大学
平成28年10月 旧朝鮮語学の特徴と変遷 第67回朝鮮学会 天理大学
平成31年8月 旧朝鮮語学における音声の認識と位置づけ 第六屆中日韓朝語言文
化比較研究国際学術研討会 中国 延辺大学科技図書館8階学術報
告庁

学会活動

朝鮮学会 韓国・朝鮮文化研究会

招請講演

平成20年8月 「北朝鮮における朝鮮語注釈辞典とその編纂」(韓国 延世大学校
国語国文学科および言語情報研究院主催) 韓国語による講演

雑誌などの連載

昭和60年10月より昭和63年8月まで「朝鮮語のひびき」を『現代コレア』日本朝鮮研究所発行に17回にわたり連載

平成14年4月から平成15年3月まで「韓(から)くに・ことばのひびき」をNHKラジオ 안녕하십니까? ハングル講座 テキストに12回にわたり連載

科研費の獲得

〈代表者分〉

挑戦的研究(萌芽) 18652042 朝鮮労働党の言語管理による支配政策の基礎研究
平成18年度より2年間 1,700,000円

基盤研究(C) 21520461 朝鮮労働党の言語管理による支配政策の基礎研究 平成21年度より2年間 4,030,000円

基盤研究(C) 25370676 日本語話者のための朝鮮語学習文法の開発 平成25年度より3年間 4,810,000円

基盤研究(C) 17K02962 漢字文化を基礎とした中期朝鮮語文法および語彙表の開発 平成29年度より令和4年まで(コロナ流行で期間延長) 4,290,000円

〈分担者分〉

代表者 大阪大学大学院 植田晃次教授

基盤研究(C) 20320081 学習書を通して見る近代日本における朝鮮語教育史の多元的・実証的研究 平成20年度より3年間

基盤研究(C) 23520671人物を通して見る近代日本における朝鮮語教育史の多元的・実証的研究 平成23年度より3年間

基盤研究(C) 26370726異文化接触・受容の視点から見た日本近代朝鮮語教育史の総合的研究 平成26年度より3年間

基盤研究(C) 18K00782「旧朝鮮語学」の視点から見た日本近代朝鮮語教育史の総合的研究平成30年度より5年間

基盤研究(C) 23K00745「旧朝鮮語学」と20世紀後半の朝鮮語教育から見た日本近現代朝鮮語教育史の研究 令和5年度より3年間

社会的貢献

昭和57年3月 在韓日本大使館広報官室 日本語講座講師 (昭和58年2月まで)

平成5年7月 第48回国民体育大会秋季大会ハンドボール競技会競技役員

平成10年3月 (財) 日韓文化交流基金による日本大学生訪韓研修団団長。

平成12年10月 大学入試センター韓国・朝鮮語試験問題調査研究委員会委員 (平成13年3月まで)

平成13年4月 独立行政法人大学入試センター 教科科目第一委員会委員 (平成15年3月まで)

平成22年4月 独立行政法人大学入試センター 教科科目第一委員会臨時委員

平成23年4月 独立行政法人大学入試センター 教科科目第一委員会委員

平成23年4月 独立行政法人大学入試センター 教科科目第一委員会韓国語部会副委員長

平成24年1月 独立行政法人大学入試センター 試験問題評価委員会委員 (平成24年3月まで)

平成24年4月 独立行政法人大学入試センター 教科科目第一委員会韓国語部会委員長 (平成25年3月まで)

平成25年1月 独立行政法人大学入試センター 試験問題評価委員会委員 (平成

25年3月まで)

感謝状など

平成26年4月 国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会、大学入試センターから大学における入学者選抜に貢献したことにより感謝状を贈呈される。

平成29年8月 中国 延辺大学日本学研究所から国際シンポジウムへの貢献により感謝牌を授与される。